

近年、バリアフリーやノーマライゼーションなどの理念の広がりにより、障害者スポーツに対する関心も高まっています。そして、障害者が日常的に利用できるスポーツ施設も各地域にできています。そこで岡山県の障害者スポーツの現状について、岡山勤労身体障害者体育センター利用者を中心に、彼らの日常スポーツ活動について述べたいと思います。

岡山勤労身体障害者体育センター（以下、障害者体育センター）は、岡山市内に1981（昭和56）年に開所した障害者専用のスポーツ施設です。施設内は障害者の利用に対しての配慮がされており、アーチェリーや卓球、車いすバスケットボールや車いすツインバスケットボールなどが行われています。利用している障害者は、女性にくらべ男性が多く、平均年齢は40歳近くでありました。スポーツ種目の平均年齢はアーチェリーなどの比較的軽度なものほど高くなっていました。利用者の障害の種類は、ポリオ（小児麻痺）、脊髄損傷、脳性麻痺、四肢機能麻痺、知的障害、頸椎損傷などでありました。

(1) 障害者体育センター利用者の日常スポーツ活動について

① スポーツを始めた動機について

動機として最も多かったのが「体力の維持・向上」で、33.9%でありました。

以下、「楽しみのため」「健康のため」「生きがいのため」と続きます。

② スポーツ実施の頻度について

多くの利用者が、1日に2～4時間、1週間に2～4日、1ヶ月に5～9日、スポーツを行っていました。

③ 障害者体育センターまでの移動にかかる時間

障害者体育センターの利用者のほとんどが車いすで、多くの利用者が車を利用していました。80%近くが1時間以内で、最も移動時間が長い者は3時間でした。

④ 障害者体育センター以外でのスポーツ活動

60%近くが、学校を除く公共施設をあげていました。自宅でスポーツを楽しんでいる利用者もいました。

⑤ スポーツに関する情報の入手方法について

施設や設備にかんする情報は、スポーツを行ううえで重要なものであります。60%の利用者が「家族・知人」をあげていました。新聞・雑誌、テレビ・ラジオなどのマスコミや、最近利用者が急増しているインターネットの利用はありませんでした。

⑥ スポーツの仲間について

「誰とスポーツを行うか」については、50%以上がチームやクラブの仲間をあげていました。

またボランティアなどともスポーツを行っていました。
 健常者とのスポーツの機会は、ボランティアの参加も含めて80%近くが「ある」と答えていました。

(2) 障害者体育センター利用者におけるスポーツ実施上の問題点について

図の1は、障害者がスポーツをする上で不便に感じていることを調べた結果です。これから施設や指導者、情報、経済的負担について不便を感じている利用者が多数いることが分かります。

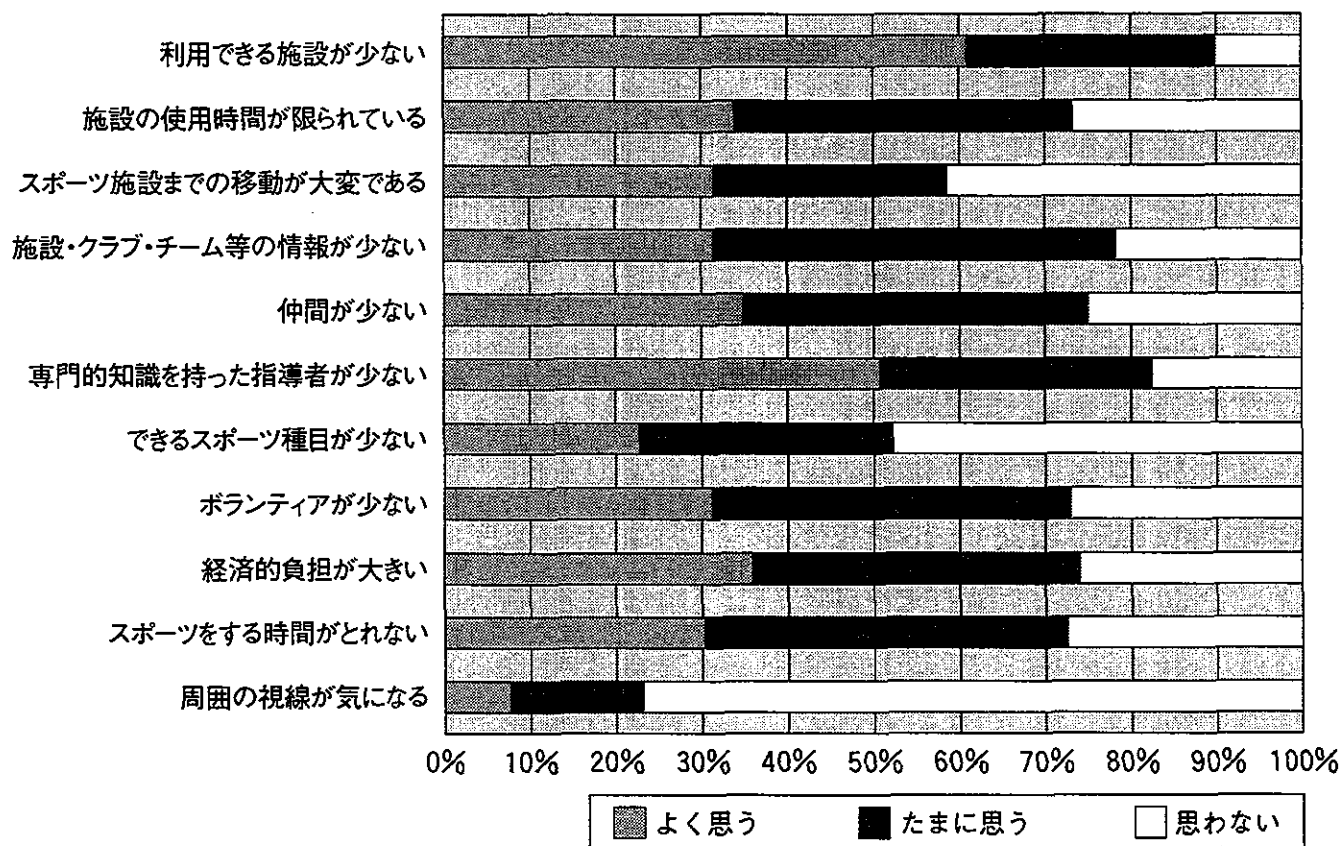


図1 スポーツをする上で不便に感じていること (n=63)

(3) まとめ

障害者体育センター利用者が日常、どのようなスポーツ活動を行っているかをまとめると次のようになります。

1. 障害者体育センターでスポーツを行っている障害者は、障害については四肢不自由が最も多く、ほとんどが後天的障害でした。また行っているスポーツは、比較的軽度のスポーツにおいて年齢層が高くなっている傾向がみられました。
2. 行われているスポーツは、その多くが「体力の維持・向上」や「楽しみ」を

目的に行われていました。スポーツにかんする情報は、「家族や知人」などの口コミが中心であり、マスコミやインターネットの利用はあまりみられませんでした。

3. 障害者スポーツにかんする施設や行われるスポーツに共通する問題点は、利用可能な施設数、使用時間、移動、必要な情報、仲間、指導者、スポーツ種目、ボランティア等が少ないことがあげられました。またメンバーの高齢化が進み、新しい人、特に若い人が入ってこないことや、経済的負担についても今後の課題として残されました。

※ おわりに

障害のある人にとってスポーツは、残された身体的機能の維持・向上だけでなく、生活の質の向上にとっても重要なものであります。さらに自信を持ち、力をつけ将来に向かって動き出すための適切な手段でもあります。このことは、障害の有無に関係なく、スポーツにかかわる全ての者にとっても同様であります。平成17(2005)年には岡山県において全国障害者スポーツ大会が開催されます。これを機に垣根なくスポーツが日々実践できる環境づくりが望まれます。今後の障害者スポーツのますますの発展を願って・・・

(新納昭洋 他：岡山県体育学研究 2003.9より一部抜粋)

2 岡山県障害者スポーツの紹介

内容については一部訂正等があります。
また、ご利用については一度問い合わせ先にてご確認ください。

アーチェリー

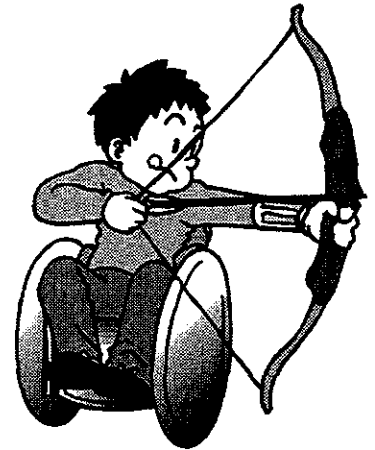
内容 一般のアーチェリーと同様に、洋弓を標的に当て得点を競う。インドア、アウトドアがあり、的までの距離がそれぞれ違う。

I 団体名	岡山アロークラブ/昭和56(1981)年～
代表	吉行 秀雄(086-946-0715)
活動日時	月曜日 18:00~20:00/木曜日 19:00~21:00(隔週)
活動場所	岡山勤労身体障害者体育センター(岡山市二日市56 086-223-5480)
指導者	有り
大会等	中四国身体障害者アーチェリー競技大会など
会員数	男22名、女3名、計25名
募集	広報誌やインターネット等で
費用等	年会費3,000円(登録料 別途)

II メモ・コメント

- 練習を見学させてもらおうと、健常者、障害者の区別はなかった。同じラインにたち、同じ道具を持ち、同じように引いていた。代表の吉行氏が述べたように、アーチェリーはこの点で特殊なスポーツといえる。障害の有無で区別せざるをえないスポーツが多いなか、みんなが同じようにできるアーチェリーはここが良い点である。
- アーチェリーの弱点は、広い場所が必要だということである。アーチェリーは最長92mの距離の的を射る。当然、安全のためにそれ以上の距離が必要である。しかしながら、それだけの場所はなかなかない。普及するにもそれがネックとなっている。
- 練習はわきあいあいとしていて、みんなが助け合い、教えあいながらやっていた。弓を引いている姿は、とても生き生きとしていて楽しそうだった。

(取材者：森山 陽子)



エアロビック

内容 40分くらい曲に合わせて動く。一般のエアロビクスは姿勢なども重要だが、ここではリズムにのることを楽しんだり、動作の順番を覚えたりするのが中心。

I 団体名	竹内エアロビック研究所/平成7(1995)年～
-------	-------------------------

代 表	竹内 美穂 (086-474-0569)
活動日時	年1回
活動場所	不定
指 導 者	謝名堂りさ：(社) 日本エアロピクス連盟テクニカルアドバイザー、指導歴13年／高木 雅美：指導歴3年
ボランティア	指導者がボランティアで参加
大会等	ナイスハート(財)ふれあいの広場
会 員 数	男女合計 200名 (毎年異なります)
募 集	していません
費用等	集めていません
入会について	事前に施設や付き添いの方などと打ち合わせをします

II メモ・コメント

- 知的障害（ダウン症）の人が多い。
- 集中して、無邪気にエアロビックをしている。
- 車いすの人は腕だけのエアロピ。
- 異なる年齢でも、お互い照れることなくできる。
- 注意事項：障害の程度によっては、自己の体温調節ができない場合があります。特に暑い日には、エアロピに没頭しすぎて水分不足になってしまうおそれがある。指導者は随時、休息や水分補給を呼びかけています。
(取材者：竹内 美穂)

エアロビック リズム体操

内容

障害のある人も無理なく楽しめる、リズムを使った運動（子どもから高齢者、重度障害者も）。

I 団体名	エアロビック・サークル・チーム・MOMOTARO／平成8(1996)年～
代 表	竹内 研 (086-474-0569) e-mail: takeuchi@Kiui.ac.jp
活動日時	週5回 年間を通じて 相談可
活動場所	倉敷市内の各施設
指 導 者	竹内 研、竹内 美穂
ボランティア	10名
大会等	障害者スポーツ大会への参加・指導、障害者・高齢者施設への出張指導
会 員 数	男3名 女80名 合計83名
募 集	特にしていません
費用等	集めていません

(取材者：竹内 研)

グラウンドソフトボール（盲人野球）

内容 ソフトボールとキックベースボールをたしたようなもので、1チーム10名で行う。10名のうち4名が全盲で、6人が弱視のメンバーで構成されている。ボールは男用3号のハンドボールを使用。
バットは野球で使うものより重い。

I 団体名	視覚障害者協会 グラウンドソフトボール部／昭和40（1965）年ごろ～
代表	モトジマ（086-455-4796）
活動日時	不定期 3～5月までは週2回、それ以外は月2回程度
活動場所	岡山盲学校（岡山市原尾島4-16-53 086-272-3165代）
指導者	モトジマ：指導歴3年（指導に資格は特にいらないが、審判には必要）
ボランティア	募集中。晴眼者の人でも一緒にやってくれる人
大会等	5月：国体予選（国体には中四国から1チームだけ出場できる） 7月：おりずる杯（参加チームは中四国各県から1チームと、政令指定都市である広島市から1チームの合計10チーム）
会員数	男20名
募集	学生時代の経験者などへの勧誘
費用等	集めていません
入会について	活動は誰が参加してもよい。しかし国体予選に出場するには、障害者手帳を持っていることと、障害者連盟に登録しておくことが必要。以前の国体予選の出場条件は14歳以上（社会人）でなければならなかったが、現在は学生も出場できる。

II メモ・コメント

●ルールについて：

10名で1チーム。その中に全盲4名、弱視6名を含む。また、キャッチャーが手を3回たたくと、ピッチャーがボールを転がす。また守備に関しては、全盲の人はゴロであってもキャッチするとアウトになる。弱視の人は普通の野球と同じく、ノーバウンドでキャッチしないとアウトにならない。その他のルールは細かくあるが、大会ごとに規定されている。現在では、晴眼者の人でも参加できる大会もある。練習の雰囲気はわきあいあいとした中、個々がそれぞれ向上心にあふれ目標を持っていることが感じられた。

（取材者：齊藤 絵美）

車いすダンス

内容 音楽にあわせて、車いすの人と健常者の人が2人1組になって踊る。

I 団体名	日本車いすダンス連盟岡山市支部／平成8（1996）年ごろ～
代表	NPO（非営利活動法人）
活動日時	団体レッスン 日曜日 13：00～16：00／個人レッスン 水曜日 13：00～
活動場所	日本車いすダンス連盟岡山市支部（赤磐郡熊山町桜ヶ丘東1-1-806 08699-5-2740 FAX 08699-5-2269）
指導者	来海千寿子：外交ダンス・車いすインストラクター、指導歴5年 来海 直人：外交ダンス・車いすインストラクター
ボランティア	募集中 晴眼者の人でも一緒にやってくれる人
大会等	第30回記念ニュースターダンス競技大会 （平成13年7月29日（日）10：00～19：00 convex岡山 マスカットホール） 第30回記念ニュースターダンス競技大会 前夜祭 大舞踏会 岡山スポーツダンス協会（平成13年7月28日（土）17：00～20：30）
スポーツ以外	車いすダンスが充分知られていないので、「知らせる、広げること」を現在の課題として、希望があればダンスパーティーのデモンストレーション（3ヶ月に1回ぐらい）を実施している。
会員数	岡山支部 15～16名
募集	している（デモンストレーションやチャリティーで）

II メモ・コメント

- ある一つの踊りのパターンを覚えたら、全国共通で使えるようにダンスを作っている。
- 指導について：障害者の人と健常者の人が一緒に踊る時に気をつけないといけないのが、双方の間の距離（≒わく）を保つことであり、そのわくをきちんととり続けるのができるような、一緒に踊る人の心の姿勢が大切。
ダンスが最終目的であるが、人によってはそれぞれの目標が違う。そのため指導者は、会員一人一人の障害についてよく知っておく必要がある。感覚、程度など本人にしか分からないことがある。本当に理解するためには、コミュニケーションをとっておくことが大切。どんな人でも普通の扱いで、同じように接することが大切（この団体はダンスだけが目的ではないということが大切）。
- 感想：一人一人が目標や練習メニューが違っている。まず1つをクリアーするために、目に見える以上の努力が感じられた。みんなで本当に喜んでいる姿をみて、すごく生き生きしたものを感じた。

（取材者：難波 るみ）

車いすツインバスケットボール

内容 通常のバスケットボールのゴールと、フリースロー・ラインに設けられた低めのゴールの2つを使い得点を競う。日本で考案されたスポーツ。握力の弱い選手のために、ボールは軽く小さめの5号球を使用する。ボールを取りやすくするために、各選手はゴムの手袋を着用する。その他はメモ参照。

I 団体名	ダンク岡山／平成6（1994）年～
代表	宮地 秀典（090-1181-6012）
活動日時	木曜日 13：00～17：00／土曜日 13：00～20：00
活動場所	①岡山勤労身体障害者体育センター （岡山市二日市56 086-233-5480） ②倉敷健康福祉プラザ（倉敷市笹沖180 086-434-9850）
指導者	信谷
ボランティア	常時6～8名。大会時は主催者側からボランティアを派遣することも
大会等	※ツインバスケットボール ブロック対抗戦 ※車いすバスケットボール&ツインバスケットボールon全国大会 ※近畿・中四国ツインバスケットボール 定期大会 etc
会員数	男19名 女1名 合計20名
募集	している（病院、リハビリセンターの紹介など） ホームページの開設を現在計画しています
費用等	年会費14,000円

II メモ・コメント

- ツインバスケットボールが何であるかを知っている人は少ない。
- 病院、リハビリセンター等からの紹介はあるが、新しく入会する者は少ない。
- 車いすバスケットチームは各県に3～4チームあるが、ツインバスケットチームは各県に1チーム（多くても2チームほど）。
- 使用できるスポーツ施設が限られている。
- 自律神経に障害を持っている人もいるので、体温調節は大切。
- ルールや競技内容について：
 - ・ほとんどバスケットボールと同じルールで行われる（トラベリング、テクニカルファール、チャージetc…）
 - ・一部ツインバスケットボール用には、30秒ルール等時間変更がある。障害の程度に関するものもいくつかある。



- ・男女のハンディーなくプレイできる。
- ・障害の程度差をカバーできるルールがある。
- ・事前に医師によるメディカルチェックが必要。

(取材者：本山 理恵)

車いすテニス(岡山市) **内容** 競技用の車いすを使ってテニスをする。

I 団体名	サタデーナイト会/昭和61(1986)年～
代表	山根 勇 (086-225-3970)
活動日時	火・木・土曜日 18:00～21:00/日曜日 13:00～17:00
活動場所	岡山勤労身体障害者体育センター(岡山市二日市56 086-223-5480)
指導者	内山 久暉:指導歴15年、滝 正敏:指導歴2年、 大熊 亮:指導歴7年
ボランティア	約4名(所属:日本シニアテニス協会・女子連盟など)
大会等	※岡山市長杯(出場規定は特にないが人数制限あり) ※JWTA(日本車いすテニス協会)主催の大会(協会加入が条件) ※ITF車いすテニスツアー(神戸、飯塚、長野、仙台、大阪、広島、厚木)
会員数	男30名 女2名 合計32名
募集	随時「口コミ」や市テニス協会の案内を通じて
費用等	入会金1,000円 月会費1,000円
入会について	会員は練習コート代 1回200円が別に必要 希望があれば気軽に体験できる(その場に応じて対応)
その他	・規約あり ・合宿やキャンプもある

II メモ・コメント

- 女子連盟が開催する講習会が年2～3回(6・7月中)にあり、指導者の滝さんが月1回(日曜日)テニススクールを開いている。この講習会を終えると、その成果の発表の場といえる市長杯が年に1回開かれ、常に目標をもって練習に取り組める。また市の協力で月に1度開かれる滝さんの車いすテニス教室では、様々な人と交流を深めることができる。週に定期練習が4日あるので、都合の良い日気軽に参加できるのが大きなメリットでもある。10～50代と、会員の年齢層も幅広く、みんなでスポーツを楽しめる。熟練者には、国内外を問わず活躍している者もあり、レベルも次第に上がっている。
- 問題点としては、代表の山根氏によると、①運営資金、活動場所確保の問題、②岡山県のレベルをどう引き上げるか(指導者などの点で、他県に追いつくにはどうしたらよいか)、③会員数を増やすにはどうしたらよいか(どのようにしたら会が盛り上がるか)という4点をあげている。

- 女子連盟の話によると、車いすテニスのボランティアに参加して、15年が経過している。最初の7年間ほどは、どれくらい相手が要求しているか、どこまで手をかせばいいのか、また対等な立場でコミュニケーションをとることが難しかったと話していた。また「テニス好きな者同士がお互い楽しむ」ことができるようになるまでにも時間がかかったと話していた。会話におけるコミュニケーションがとても重要で、だんだん言いたいことが言え、冗談やいやみを交えて話せるようになった。
- ボランティアについて一番大変なことは、「ボランティアの人集め」である。取材者が見学した時には23名のボランティア（女子連盟）が参加していた。しかし少ない時には6名程度であった。たった年3回の講習会であるが、少しでも多くの人に参会してもらえるように募集の仕方を工夫している。ボランティアの参加者からは、「たった3回の講習会だけでも、皆さんずいぶん上達されている」といった意見がある。
- サタデーナイト会は随時体験可能です。「来て下さる方は大歓迎!!。かしこまらずに皆で楽しくやりましょう」と山根代表の言葉通り、明るく、楽しい雰囲気です。

(取材者：古舞 園子)

車いすテニス(倉敷) **内容** 競技用の車いすを使ってテニスをする。

I 団体名	ももっこクラブ
代表	丸山真由美 (090-9469-3158)
活動日時	第4土曜日 17:00~19:00 他月3~4回
活動場所	くらしき健康福祉プラザ (倉敷市笹沖180 086-434-9850)
指導者	大熊 亮：指導歴9年、資格：テニスA級指導員、障害者スポーツ指導員、日本車いすテニス協会コーチ
ボランティア	10名
会員数	男2名 女3名 合計5名
募集	ポスターでしています。
費用等	入会金：無、月会費：1,000円
入会について	代表 丸山まで
その他	規約あり

II メモ・コメント

- ジュニアクラブとして活動しています。これからどんどん活動の輪を広げていこうと思っています。これからはじめてみようとお考えの方、ご一報ください。

(情報提供：大熊 亮)

車いす電動サッカー（パワーサッカー）

内容

ボールの直径は45cm～50cm。4人制で車いすのスピードが6km/hの者が2人、4.5km/hの者が2人の合計4人。コートはバスケットコート程度である。普通のサッカー同様、相手ゴールを目指してプレイする。

I 団体名	アイアン・ポニーズFC岡山/平成12(2000)年10月～
代表	山本 宏之 (086-263-1833) e-mail: h999y@d2.dion.ne.jp
活動日時	第2・4金曜日 13:00～17:00
活動場所	岡山勤労身体障害者体育センター (岡山市二日市56 086-223-5480)
指導者	山本 宏之
ボランティア	常時約3名 (現在募集中)
大会等	中国ブロック大会等に参加
会員数	男11名 女1名 合計12名
募集	ポスター等で
費用等	入会金3,000円
入会について	ターンなどの際に、黒色のタイヤではタイヤのあとがつくため、ねずみ色のタイヤにすること。

II メモ・コメント

- 活動上の問題点としては、ボールがコートの外に出て壁にひっついた場合に、車いすでは取りにくい。そのためボランティアの人が両サイドにそれぞれ必要。
- 気付いた点は、一人一人が「OK」や「ナイスシュート」などと声をかけあって、チームにとって一番大切なコミュニケーションをとっていた。みんな楽しくやっていて、雰囲気よかった。練習を見学しながら、やはりみんなサッカーが好きなんだと思った。



(取材者：石山 泰三)

車いすバスケットボール

内容

健常者とはほぼ同じルール。異なる点は、2回こく→持つ→2回こく、はダブルドリブルにならない。ボールを持って3回こいたらトラベリング。各チームに持ち点があり、14点を超えてはならない(コート内の5名の選手の合計点)。これは障害の程度に応じて決められている(軽度の障害：4.5点、重度の障害：1点)。

I 団体名	岡山県車いすバスケットボール連盟
-------	------------------

2 岡山県障害者スポーツの紹介

※所属クラブチーム

●新生車椅子バスケットボールクラブ（15人）

●岡南車椅子バスケットボールクラブ（9人）

●吉備松下クラブ（18人） ●吉備の里（16人） ●ダンク岡山（22人）

代 表	三宅 政志（吉備松下クラブ）
連 絡 先	〒709-2343 御津郡加茂川町竹部2098 吉備松下(株)内 吉備松下クラブ 0866-56-8111(代)
大 会 等	県内：岡山県障害者体育大会、岡山心身障害者親善大会など 県外：全国障害者スポーツ大会中四国予選大会、佃杯争奪車椅子バスケットボール大会など ※その他、定期的に講習会や合同練習会を実施

II クラブチーム別の活動（掲載されていないクラブチームについては、連盟にお問い合わせください）

名 称	吉備松下クラブ（18人）／昭和56（1981）年～
代 表 者	三宅 政志（吉備松下内 0866-56-8111(代)）
コ ー チ	前田 晋
活動日時	水・金曜日 19:00～21:30
活動場所	社会福祉法人 吉備の里 （御津郡加茂川町上野2320-11 0866-56-8216）
入会について	大会への参加費（約20,000円）は個人負担で、その度集める。車椅子バスケットボール用の車椅子は約45万円で、非常に高価である（一部、補助金が出ることもある）。できるなら自分の体型にあったものをオーダーした方が望ましい。初心者は、チームにある車椅子を使用しても良い。
そ の 他	全国大会へ過去7回出場

▶ 名 称	新生車椅子バスケットボールクラブ（14人）
代 表 者	福安 里司（新生電器(株)内 0866-62-2015）
コ ー チ	川崎 琢磨
活動日時	火・金曜日 19:00～21:00
活動場所	井原勤労者体育スポーツセンター （井原市上出部町658-1 0866-63-0842：月曜休）

III メモ・コメント

- 問題点：使用できる施設が少ない。現在は、岡山勤労身体障害者体育センター、倉敷健康福祉プラザ、岡山県立大、吉備の里などで練習や大会、講習会などを行っている。
- バスケット用の車いすは非常に軽く、後輪を少しにぎるだけで簡単にターンができる。また車いすの後ろにはストッパーがついていて、後方への転倒を防ぐようになっている。実際の

プレイは、ジャンプボールでは上体をひねり、片方の車輪を浮かし少しでも高くといったシーンや、勢いよくぶつかって車いすから落ちるシーンが見られた。

(取材者：岡井 栄子)

乗馬

I 団体名	うーまらいぜいしょん 森の風クラブ 平成11(1999)年6月～
代表	小延 祥夫
事務局長	山内 孝子 (086-254-7381) http://chance.gaiax.com/home/a061201482
活動日時	水曜日/土・日曜日 (時間等詳細は事務局へ)
活動場所	森の馬小屋 佐伯ライディングファーム (和気郡佐伯町小阪1280 0869-89-3570)
指導者	原田 喜一
ボランティア	常時4名
会員数	男9名 女5名 合計14名
募集	しています
費用等	年会費5,000円 (その他の費用については事務局へ)
その他	規約有り

II メモ・コメント

- 馬に乗っている子どもを見ると、肢体不自由であることを感じさせない。
- 馬が歩いたとき、動く骨を感じる事ができ、そのことが肢体不自由の人にとって歩くための助けになる。
- 動くもの(動物)に乗ることで、バランス感覚を養うことができる。
- さまざまなハンディーをもった子ども達が参加していた。
- 馬が動くと体がゆれる。これを怖がらずにむしろ楽しんでいた。笑いながら乗っている。
- 会員の保護者がスタッフとして参加している。
- (株)永燃、(株)森の馬小屋など、多くのボランティアの人々によって支えられている(体験乗馬会にもたくさん人が参加)。

(取材者：池田 博)

水泳

内容 個人インタビュー (男子高校生、自閉症)

I 活動日時	火曜日 18:00~18:50/日曜日 10:30~11:20
活動場所	安全スイミング(岡山市関394-16 086-279-4121 担当:入沢 剛)

指導者 入沢 剛：指導歴7年

大会等 ※平成13年5月20日 備前市の水泳大会に参加（記録：25mクロール31秒）
 ※平成13年7月22日 備前市水泳教室に参加

II メモ・コメント

- 現在、クロールができるようになり背泳ぎを練習していました。気付いたことは、何度も指導者に確認をとり指示を仰いでいたことです。これは指導者が変わると、指導法が変わることがあり、練習内容の意味が分からなくなることがあるからだそうです。そのためクロールを修得するのに約5年かかったそうです。
- 保護者からは、障害をもっている人に対する専門知識を持った指導者の必要性や、水泳をさせたくてもできる場所が限られている、などの意見がありました。
- 本人は勉強より水泳の方が好きだと言っていました。最後に「さようなら」と言ってくれたのがうれしかったです。（取材者：小林 和弘）

ソフトボール

I 団体名	岡山県身体障害者福祉連合会／昭和55（1980）年～
代表	高瀬（086-332-3840）
活動日時	日曜日 9：30～12：00 年4回程度の試合を実施
活動場所	総社市河川敷グラウンド（総社市スポーツセンター 0866-93-2100）
指導者	高瀬
ボランティア	常時2名（練習試合の手伝い）
大会等	※岡山大会（平成13年9月23日）※中四国合同大会（倉敷市民球場）
会員数	合計40名
募集	新聞の広告などに掲載
費用等	集めていない。遠征費のみ徴収
入会について	障害者手帳を持っていることが条件
その他	・財団法人 ・青年部のほかに婦人部がある

II メモ・コメント

- グラウンドでは様々な障害を持つ者が楽しそうに練習している。足や手首などの運動機能障害の方が多かった。中には言語障害の方が、身振り手振りでチームメイトとコミュニケーションを図っていた。練習内容は本格的で、コーチが中心となり、軽いキャッチボールのあと守備練習と続く。守備練習では、ゲッツーなどゲームに近い練習が行われていた。しかしみんな楽しそうに練習をしていて、時にエラーがあると笑い声がグラウンドに響いた。

（取材者：石嶺 伝）

ダイビング

内容 日本で初めて身障者への正規のダイビングプログラムを提供している。

I 団体名	JULIA/平成3(1991)年～
代表	●JULIA/HAS—JAPAN HEAD OFFICE 〒559-0007 大阪府大阪市住之江区粉浜2-18-6 レッツビル7F 06-6675-1228 FAX 06-6675-1229 http://ryukyu.ne.jp/~annou/julia.html e-mail: julia@maido.ne.jp ●岡山県の問い合わせ先 岡山大学教育学部三浦研究室 三浦孝仁 (岡山市津島中2-1-1 086-251-8562)
活動日時	企画にて
指導者	世界中 三浦 孝仁: JULIA/HASインストラクター、指導歴10年 岡山県 (資料提供: 三浦 孝仁)

バトミントン

I 団体名	桃太郎バトミントンクラブ/昭和61(1986)年ごろ～
代表	松浦 広志 (086-254-5817)
活動日時	金曜日 18:00~20:30/日曜日 9:00~12:00 (不定期)
活動場所	岡山勤労身体障害者体育センター (岡山市二日市56 086-223-5480)
指導者	岡
ボランティア	募集は行っていません
大会等	※福岡障害者オープンバトミントン大会 ※日本障害者バトミントン大会 (名古屋)
会員数	男5名 女3名 合計8名
募集	している (電話連絡の後、見学に来てください)
費用等	入会金なし 月会費500円
入会について	障害者のみ募集

II メモ・コメント

- とてもわきあいあいと楽しい雰囲気練習している。
- 人数があまり多くないが、となりで20人ほどの障害を持った方が卓球をしていて、とてもにぎやかでした。両クラブとも仲がいい様子でした。

- クラブの代表の松浦氏は、アーチェリー、バトミントン、卓球など、スポーツ万能ということで周囲の評判の方でした。
- 岡山勤労身体障害者体育センターの職員の方は非常に親切でした。
- センター内は冷暖房が完備され、気持ちよくスポーツを楽しむことのできる環境でした。

(取材者：宮原 幸代)

パワーリフティング

内容 パワーリフティングは、同じバーベル種目でもスナッチやジャークといったウェイトリフティング（重量挙げ）とは異なり、全ての競技の体力作りの基礎となるスクワット、ベンチプレス、デッドリフトの専門種目である。近年、国体のデモンストレーション競技にも認定され、生涯スポーツとして将来有望なスポーツである。

中でもベンチプレスは、下肢に障害をもつ身障者に人気の種目であり、パラリンピックの正式種目として第1回大会より導入されている。競技はベンチ台に横になり上半身（特に腕）の力で胸のあたりでバーベルを押し上げる単純な運動で、初心者でも取り組みやすい。県内でも年に数回ベンチ大会が開催されている。レベルに応じて全日本大会、世界大会、または日本代表としてパラリンピック出場も夢ではない。

I 団体名	岡山大学体育会ウェイトトレーニング部／平成1（1989）年～
代表	三浦 孝仁
連絡先	岡山大学ウェイトトレーニング部合宿所 （岡山市津島東4-1-28-3 086-255-5889） e-mail : koji3@okayama-u.ac.jp http://www.bekkoame.ne.jp/~nanba/
活動日時	水曜日 14：45～17：00／土曜日 10：00～12：00 その他 毎日16：00～21：00まで自由
活動場所	岡山大学第2体育館
指導者	三浦 孝仁
大会等	県内※3月：岡山県ベンチプレス大会※10月：岡山市ベンチプレス大会 その他※9月：全日本ベンチプレス大会※12月：世界ベンチプレス大会
会員数	男30名 女2名 合計32名
募集	ホームページを見て興味がある方は、連絡をすれば体験できます。

(取材者：岡山大学ウェイトトレーニング部)

フライングディスク

内容 ディスタンス…ディスクを投げ、その距離を競う。
 アキュラシー（ディスリート・ファイブ、ディスリート・セブン）…5mもしくは7m離れたサークルへディスクを10回投げ、何回サークルを通過させたかを競う。

I 団体名	岡山県障害者フライングディスク協会(OFDA) 平成12(2000)年～
代表	難波 茂(岡山県総合福祉センター 086-243-1711)
活動日時	不定期(協会へ問い合わせて下さい)
活動場所	不定
指導者	あり
大会等	※フライングディスク大会の開催 ※岡山県障害者スポーツ協会の要請を受け、スポーツ教室の開催
会員数	合計 80名
募集	指導員：社会福祉センターで開催される講習会に参加する
入会について	「障害者フライングディスク指導者養成講習会」に参加すれば、修了後、日本障害者フライングディスク連盟公認指導者(二種)として資格申請ができる。
その他	・フライングディスクの普及、振興のため、各地域から要請があれば随時指導に行く ・指導員を養成するための講習会の開催 ・活動報告を兼ねた会報の発行

II メモ・コメント

●このフライングディスクという競技は、日本では1981年の第1回スペシャルオリンピック全国大会から正式種目に加わった競技である。もともとは知的障害者が多く参加していたものだが、最近は身体障害者も参加するようになった。ディスタンスのほうでは、男女や車いすかどうかで区別して競技を行う。しかしアキュラシーでは、男女、年齢、障害の区別なく行う。5月20日の大会も、幅広い年齢の者が参会しており、皆楽しそうにプレイしていた。様々な人々が年齢や障害を越えて、1つの競技に真剣に取り組む姿は感動的であった。フライングディスクは、いつでも、どこでも、だれでも、だれとでもプレイ可能なスポーツなので、とても親しみやすい。また成功する喜びを与え、共有したいと考える協会の方の工夫、演出もとてもすばらしかった。

(取材者：松嶋 祐子)

フロアバレー

内容

基本的には6人制バレーと同じですが、ボールが地面を転がり、ネットの下を通ります。

I 団体名	社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会 フロアバレー部 平成2（1990）年ごろ～
代表	浅野紀美江
活動日時	年間スケジュールについては協会へお問い合わせ下さい
活動場所	①岡山勤労身体障害者体育センター (岡山市二日市56 086-223-5480) ②岡山県立盲学校 (岡山市原尾島4-16-53 086-272-3165)
ボランティア	あり。審判部所属の者が14～15名
大会等	年に2～3回全国大会がある(だいたい毎年ベスト4)
会員数	男12名 女12名 合計24名
募集	している(友人を誘うなど)
費用等	入会金なし。年会費3,000円+遠征費 晴眼者は審判部へ

II メモ・コメント

●岡山県立盲学校の鈴木教諭を中心に活動している。今年（平成13年）岡山で全国大会が開催。この全国大会では、過去に優勝経験もある。毎月第2土曜日に初心者を対象にした、「フロアバレーを楽しむ会」が行われている。

(取材者：妹尾 雅史)

ボーリング

内容 主に足に障害のある者が行う。

I 団体名	岡山スリーSクラブ/平成1（1989）年～
代表	前原進之助（086-241-4362）
活動日時	月に1度合同練習
活動場所	サンフラワーボーリング（倉敷市松島1177 086-462-3131）
指導者	前原進之助
大会等	全国大会（福岡）銀・銅メダル（大会は障害別に開催）
会員数	男12名 女8名 合計20名（夫婦での参加者あり）
募集	特にしていない
費用等	集めていない

II メモ・コメント

- ボーリングはゲーム代などお金がかかるスポーツであり、皆マイボールを持っている。またボーリング場へは、車で参加している者が多い。岡山スリーSクラブは、夫婦での参加者が多い。
- 全国大会は福岡で行われている。福岡は障害者の町といわれている。ボーリング場でも、階段が多い所にはエレベーターが設置されていたり、段差のある所でも車いすでの移動が行われるような工夫がされている。岡山にも、このような工夫がされたボーリングがいくつかあるそうだ。参加者は障害をもっているとは思えないほど、みんな自分のことは自分で言い、とてもいきいきとしていた。

(取材者：三好 智美)

盲人マラソン

内容 視覚障害者と伴走者が共に走る。

I 代表 村松 達也 (086-253-5940)

活動日時 毎週月・金・土 5:00~5:40

活動場所 吉備路サイクリングコース

大会等 ※各種市民マラソン
※岡山県障害者スポーツ大会など

II メモ・コメント

- レース中や練習中に、こけたり、水たまりにはまることはよくあるらしい(!?)。伴走者は走っている視覚障害者に注文せず、伴走者があわせていく。
- メディアに取り上げられることについて：
障害をもっていることを、世間に知られたくないという家族は多い。しかし実際にスポーツを行っている者は、スポーツをする時点で外出しているの、それほど抵抗はないのでは。
- 伴走者は他にもいるらしい。村松氏は平成8年から走り始め、3回ほど大会にも参加(フルマラソン2回)
- 健康づくりのためと、競技用の走り方ではトレーニング法が全く異なる。タイムをねらう場合は手を大きく振って走る。

(取材者：鳥巢 信一)